

はぐるじんじやにし 羽黒神社西遺跡第2次発掘調査説明資料

公益財団法人山形県埋蔵文化財センター

平成27年10月10日

調査要項

遺跡名	羽黒神社西遺跡(平成25年度登録)
所在地	山形県村山市大字名取字清水
時代・種別	縄文時代・集落跡
起回事業	東北中央道(東根～尾花沢間)
調査依頼者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査機関	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
現地調査	平成27年5月25日から11月20日まで
調査面積	3,400㎡
調査担当者	主任調査研究員 大場正善(現場責任者) 主任調査研究員 菊池玄輝 調査研究員 渡辺和行
調査成果	(9月30日現在)
検出遺構	縄文時代早期:遺物包含層 縄文時代中期:遺物集中部 盛り土状遺構 フラスコ状土坑 土坑 石囲い炉 平安時代:土坑墓?
出土遺物	縄文土器(早期:押型紋・条痕紋土器、中期:大木8b式土器・有孔鏢付き土器、 晩期:大洞式土器) 石鏢 石匙 錐形石器 エンドスクレイパー ヘラ形石器 磨製石斧 石棒 剥片 石皿 磨石 凹石 須恵器 赤焼土器 砥石



写真2 3区フラスコ状土坑の掘削作業の様子

されました。出土した遺物は、縄文時代中期(大木8b式土器段階:約4,400～4,300年前)を中心とするものが大半で、土器、土偶、袋状土製品(土笛?)、円管形土器、石鏢、石匙、錐形石器、ヘラ形石器、エンドスクレイパー、磨製石斧、磨石、凹石、石皿などが発見されました。とくに土偶のなかには、舟形町の国宝土偶「縄文の女神」と同形のものがあります。袋状土製品は、ほぼ完形のもの2点について、土製品に穿たれた孔に息を吹きかけると、音を出すことができます。

今年度の調査は、昨年の掘削範囲よりも南北に広がること、また昨年の調査でできなかった3区と4区の遺構について調査することになり、昨年の調査成果を補強する内容となりました。

2 見つかった遺構と遺物

フラスコ状土坑 3区と4区の尾根の頂部付近では、5基のフラスコ状土坑が発見されました。昨年発見された土坑と同等のもので、開口部に対して、底部が広がった形をしており、深さ2m前後で、底部の幅も2m前後あります。5基ともに、下半部には埋め戻されているのが認められ、その埋土からは、土器片や石器、そして多量の炭化物が出土しました。またその埋土は、黄褐色や明褐色の粘土、クロボク土などが遺物や炭化物とともに混じりあったものでした。上半部は、自然に埋まっていったことを示す自然堆積層でした。3区の東側では、深さ1mほどの小型のフラスコ状土坑も発見されました。

フラスコ状土坑と盛り土遺構 昨年度確認された、3区と4区にある盛り土遺構は、クロボク土

の上に広がる遺物集中部の上に、黄褐色や明褐色の粘土などの土壌が盛られた遺構です。盛り土状遺構の周りには、多数の火が焚かれた跡が認められました。一方で、2mを超える深さのフラスコ状土坑を掘った場合、かなりの土量の廃土が出ます。盛り土状遺構の土質は、地山の土と同じものでした。つまり、フラスコ状土坑の埋土には、盛り土状遺構の土を、周囲にあった炭化物や遺物集中部の遺物を巻き込んだかたちで用いられたと考えられます。逆に言えば、盛り土状遺構とは、フラスコ状土坑を掘ったときの“残土置き場”であったと言えます。また、埋土層中には、まだ燃えている炭火が入られた痕跡も認められました。

石囲い炉 6区の北側では、完形の深鉢形土器のそばで、1基の石囲い炉が発見されました。

土坑墓 6区の南側では、長軸1m、短軸60cm、深さ60cmの楕円形の土坑が1基検出され、内部の埋土からは、平安時代の完形の赤焼土器・坏が発見されました。この土坑は、土器の出土状況から墓である可能性があります。周辺では、平安時代の大きな集落の跡が確認されていることから、本遺跡は平安時代の墓域の一部であった可能性が考えられます。

遺物 今年度の調査でも、昨年度と同様の土器や縄文時代中期の石器が大量に発見されました。ごく一部に、縄文時代早期や晩期の遺物も混じっていますが、大半のものは中期のごく限られた時期のもので、とくに石器は、使用された石器が多く占めており、生活道具としての石器一式や、石器の使い方を研究する資料としても、たいへんよい資料でもあります。

3 まとめ

2カ年の調査の結果、尾根上の平坦部を中心に、食物の貯蔵に使用されたと考えられる9基のフラスコ状土坑をはじめ、石囲い炉や盛り土状遺構、狩猟のための陥し穴などが確認されました。縄文土器は主体を占める中期のほか、早期や晩期のもも出土しました。

今後、センターにて整理事業を実施し、資料の分析を行いながら、縄文時代中期を主とした本遺跡での活動の様子をまとめる予定です。

1 調査の概要

遺跡の立地 羽黒神社西遺跡は、村山市名取字清水にあります。遺跡は、最上川の三難所の一つ「隼の瀬」の南から約1.8km離れた、河島山丘陵の東側に舌状に張り出した丘陵地に立地しています。遺跡周辺は、「清水」という字名が示すように、湧水する場所がいくつか認められます。北西に約4km離れた同市富並には、縄文時代中期の環状集落跡として有名な西海淵遺跡があります。そのほか市内には、湯野沢の中村A遺跡、土生田の落合遺跡など、縄文時代中期の遺跡が多く存在します。

調査範囲 今年度の調査範囲は、東北中央道(東根～尾花沢間)建設に伴い、昨年度からの継続調査区である3区と4区、そして新たに設定した5区から6区となります。

昨年度の成果 昨年度の調査では、1区と2区に



写真1 遺跡俯瞰(上が北)

おいて深さ2m以上のフラスコ状土坑が4基と、中央部に逆茂木を立てたとみられる陥し穴1基が発見されました。3区と4区では、北斜面と南斜面において、多量の土器や石器が投棄された遺物集中部と、その遺物集中部に重なるように見つかった盛り土状遺構が発見されました。3区では、石囲い炉が1基と土器敷き石囲い炉1基も発見



写真1 大型フラスコ状土坑① (東から)



写真2 土坑内遺物出土状況 (東から)



写真4 石囲い炉 (南から)



写真5 土坑墓? (北から)



写真6 土坑内遺物出土状況 (北から)



写真3 大型フラスコ状土坑② (東から)

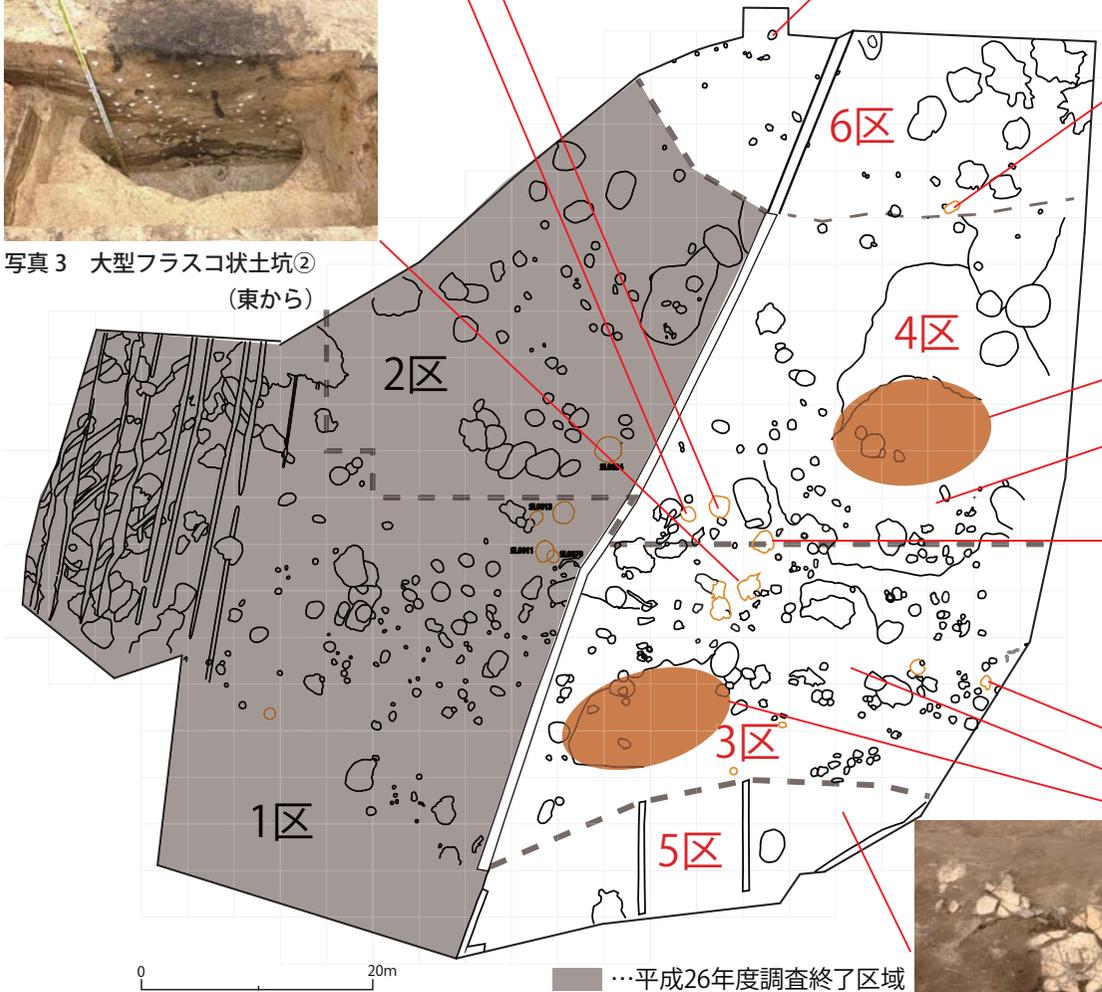


写真7 北側盛り土遺構 (南西から)



写真8 北側遺物集中部 (南西から)



写真9 大型フラスコ状土坑③ (北東から)



写真10 小型フラスコ状土坑 (北から)



写真11 5区遺物出土状況 (南から)



写真12 南側盛り土状遺構 (南から)



写真13 南側遺物集中部 (南西から)